

若くして活躍するリーダー特集誌  
「彼ら」は何を考え、何を見つめるのか

発行日 2012年1月19日  
発行者 株式会社アウトスタンディング  
代表取締役 川端陽介  
連絡先 埼玉県さいたま市大宮区大門町3-99 4F  
TEL: 048-871-6141  
http://out-standing.jp  
印刷 株式会社 オノ・エーワン

# 恐れず前へ進む 起業はリスクじゃない

## NPO法人ブラストビート 代表理事 松浦貴昌

二十六歳までバンド活動をし、十四ヶ月後には会社を設立。そんな経歴を聞きつけ、@STEPはNPO法人ブラストビートの代表理事、松浦貴昌さんへインタビューを申し込んだ。若くして組織を立ち上げるそのバイタリティはどこから来るのか。どんな経験を、何を思うのか。松浦代表のお話から、現代の迷える若者が学べる「何か」を見たい。

### 多様な集まりで 強くなる組織

川端「まずは、ブラストビートの活動内容を教えてください」

「音楽・起業・社会貢献」三つの柱でチャレンジする十代を育てる、というミッションを持って教育プログラムを提供しています。ターゲットは主に高校生・大学生などの十代です。

「多様な集まりで強くなる組織」をプロデュースする事です。イベントは会社の理念に沿ってコンセプトを作り、それに合わせて集客や広報活動に取り組みます。そして最後に、イベントで得た利益の二十五パーセント以上を、自分たちで選んだNPO・NGOなどに寄付をするんです。

「知らない人同士で組むんですか？」  
「そうですね。あとは友達を連れてきたりといったパターンもあって、様々な人が混ざり合っている。プログラムをやっていくという形になります。やっぱり会社も一緒ですが、多様なほど強くなるんですよ。僕らが一番良いライブをやったと思ってる場所、そこは、社長が大学生で、その中には優秀な大学に通っている子や中にはフリーターの子まで、本当に色々な子がいました。年齢層も十八から上が二十七歳くらいまでの幅広い年齢層で、



その時は一番バランスよく形になったなと思います。

### 苦労を困難と 思わない 今へとつながる 必要なプロセス

「では、ブラストビートを立ち上げてからどんな苦労がありましたか？」

「忙しくはしてるんですけど、苦労した」という感じではないです。難題はいろいろありましたけどね。一番初めにやったプログラムなんかはライブのちょっと手前くらいになった時点で社長が辞め、その後任の社長も決まらず結果的に解散したんです。ブラストビートはメンターという仕組み（相談役がサポートする制度）をとって、会社を作った事のない高校生・大学生が悩んでいる時にその都度メンターがアドバイスしたり考えを引き出したしたりするんです。一番初めは僕自身がメンターをやっていたんですけど、僕自身プログラムのポイントが分からなくて、皆のモチベーションの上げ方やどこで悩んでるかがよく分からず走ってきたのが積み重なって、社長が「辞める」と言いだしちゃって。当時の僕としても止められるだけの実力もなく、解散したんです。

「そうだった経験もありますし、また、いろんな関係者さんとの利害の中で学生たちに過度なプレッシャーを与えてしまうよ



ミーティング中、全体を眺め流れを見守る松浦代表

「では、ブラストビートを立ち上げてからどんな苦労がありましたか？」

「忙しくはしてるんですけど、苦労した」という感じではないです。難題はいろいろありましたけどね。一番初めにやったプログラムなんかはライブのちょっと手前くらいになった時点で社長が辞め、その後任の社長も決まらず結果的に解散したんです。ブラストビートはメンターという仕組み（相談役がサポートする制度）をとって、会社を作った事のない高校生・大学生が悩んでいる時にその都度メンターがアドバイスしたり考えを引き出したしたりするんです。一番初めは僕自身がメンターをやっていたんですけど、僕自身プログラムのポイントが分からなくて、皆のモチベーションの上げ方やどこで悩んでるかがよく分からず走ってきたのが積み重なって、社長が「辞める」と言いだしちゃって。当時の僕としても止められるだけの実力もなく、解散したんです。

「そうだった経験もありますし、また、いろんな関係者さんとの利害の中で学生たちに過度なプレッシャーを与えてしまうよ

「逆にな、嬉しかったエピソードを教えてください」

「嬉しかったエピソードだらけですね。日々嬉しんですよ、ミーティングに人が来てくれる、発言してくれる、全てが嬉しいんです。あとは、ブラストビートをやっていて目の前で学生の変化を見たりするんですよ。本当に喋れなくて、人見知りでも目も合わせられなかった子が劇的に変化する、みたいな瞬間に立ち会ってます。学生たちが本気になって、急に泣き出したり、怒り出したり、いろんな感情を表にだす瞬間があったりして。本気の振れ幅ってすごい大事なんです。その時に本気の振れ幅を経験して

「逆にな、嬉しかったエピソードを教えてください」

### 変わる、ジブン。 変える、ヨノナカ。 ブラストビートの歴史

ブラストビートを創業したのはアイルランドのロバート・ステイブソン氏、高校生を対象とする社会教育プログラムでした。二〇〇三年に開始されたそれは二〇〇六年にアメリカ、二〇〇七年に南アフリカ、イギリスへ進出し、世界で二百五十校以上の高校・専門学校でプログラムが運営されました。そのブラストビートが日本へ来たのは二〇〇九年夏、松浦氏ら有志がブラストビート立ち上げに動き出したのが始まりでした。

### 自分の人生をフルに使いたい 人生を捧げたい ものと出会った

「ブラストビートを立ち上げるきっかけは何でしたか？」

「二〇〇九年にNHKの「チェンジメーカー」という番組でアイルランドのブラストビートが紹介されていたのを偶然見たのがきっかけです。それを見た時、涙が止まらなくなりました。自分の人生そのもののように思えて。この出会いは、自分に「やれ」と言ってるんだと思っただけです。だから「よしやろう」とすぐに動きました。

### 1 高校生が音楽会社を起業

法人化は行いませんが、本物の企業と同じ要素をそろえて会社を作ります。企業理念を持ち、社長や企画、財務、広報といった役割もしっかり決めま

### 2 音楽イベントを開催

学生らが主催と言っても、その中身は本格的。会場を押さえたり、アーティストを呼んだりするにはいくらか必要なのかな、どのような広報が有効か、イベントのプログラム構成はどうするか……。メンターに助けられつつ、自分たちがどんなイベントを開催したいのかを本気で考え、本気で取り組みます。

### 3 利益の二五%以上を NPO・NGO団体に寄付

寄付先も寄付額も決めるのは自分たち。自ら考え決定することを通し、社会貢献を体感することができます。

### ブラストビートの活動

現在までに十数回のライブを開催しており、学生向けのワークショップや松浦氏による講演も行っています。

音楽 × 起業 × 社会貢献  
で、若者に  
チャレンジする  
楽しさを。

NPO法人  
ブラストビート  
〒165-0024  
東京都中野区松が丘 2-14-3  
VillagePaddy 3C  
http://blastbeat.jp  
info@blastbeat.jp

よ、怖いものがないです。から。何でも聞けて、素直に吸収できて、色々学べました。起業して会社が波に乗った後も、国際協力のボランティア活動にも興味を持ち、カンボジアで絵本の読み聞かせをしたり、フィリピンに学校を作ってみたりしてました。

そんな時にその番組を見たのですが、プラストビートの活動はまさしく僕の人生と同じだったんです。音楽イベントを開催して、それは起業体験でもあるし、しかもそのお金が自分たちのポケットに入るだけでなく他の人へ還元する。プラストビートの寄付を行う部分に関して、僕がカンボジアに行っていた経験と繋がって、「もうこれ僕でしよう！ そのものでしょう！」という感じで。日本でプラストビートを運営する事に僕の人生全てを使いたい、全てをかけた、と思って立ち上げたんです。

### 立ち止まったら考えない 走りながら考える

「そういういえば松浦さんはビジネス塾にも通われたそうですね」

そうです。大前研一さんの「アタッカーズビジネススクール」ですね。家の事情でバンドを辞めた時何の知識もなく、ビジネスの世界へ何も知らないまま入ろうとしたんです。最初は「オフイスワークがしたい」とって志望動機書いていたんで



対談する松浦代表（左）と、川端代表（右）

ですけど、それって「仕事がない」と同じ意味で。当然面接もずっと落ちてました。そんな時父親に「ビジネスについて教えてくれ」と言われて渡されたのが、大前研一さんの本だったんです。それを読んでみたら衝撃を受けて、それでビジネススクールやってみるのを知り、他に頼るものもなかったしここに通おう、と思って通い始めました。

「そんなんですね。ビジネス塾ではどんな事を学んだんですか？」

リスクをとる楽しさ、ですかね。「アタッカーズビジネススクール」って、背水の陣の人が多かったんです。「昨日会社辞めた、だから何が何でも起業しないと家族を

をぐだぐだやってるんだ、さっさと起業しろ」とって怒る感じの人でした。そこで働いてるスタッフの方々が皆同じ感じでした。

後で気付いたんですけど、別に起業ってそんなにリスクじゃないんですよ。元々僕自身が親に勘当されて、スーパーで三十円とか五十円とかのシールが貼ってある魚だけを買ってきて食べる、みたいな生活を送ってて。日本ではお金がなくても生活保護で生きてる人もいる、これ以上落ちる事なんて余程の事がない限りないだろう、と思うと何のリスクもない。「やってしまおう！」と思えたんです。

「先ほどプラストビートでの苦勞を伺いましたが、起業する際も苦勞したと感じた事は無かったですか？」

そうですね、「苦勞」というか、やっぱりプロセスって感じですね。大変な事はたくさんあって、ある日突然手持ちのキャッシュが尽きたり、初期の状態って危ない時期があったり、人に恵まれなくてクライアントに迷惑をかけてしまった。でも起業してればそう順風満帆にはいかないですよ。大変な事は山ほどありますけど、その瞬間ピンチはチャンス、と思ってる。とにかくその意味を考えたい、ピンチを越えた先には絶対成長するな、ってポジティブに考えるし動く感じですね。

でも起業に怖気づく事はないです。立ち止まって考える事が苦手なので走りながら考えてるんです。無意味に走るのとか好きで、階段とかも駆け上がりたいたいですよ。性格なんですよ。

### 全国の学校に プラストビート 部を作りた

「松浦さんは将来のビジョンをどういう風に描いていますか？」

〇から一を生み出す事の出来る若者が増えていく世の中、っていうイメージはしています。そのために、何年後になるかは分からないですけど、日本の全部の高校でプラストビート部みたいなのがある状態にしたいです。

軽音部を応援するプラストビート部がマーケティングやったり、アーティストをプロデュースしたり、ビジネスを使って町興しをしていたり。

そのために時流は大事にしていきます。向かうべき方向は分かっているけど、どんな行き方がいいのかはその時の時流を見る感じ。三年後にはこうなる、って思ってる。経験もあるんですけど、うまくいかない事も多くて。だからいい流れ、風が吹いてる、っていうのは感じるようにして、うまくいかなくてもそれがどんな意味なのかを考えるようにしています。

「今の若者で起業するのは珍しいですよ。むしろ」就活は大企業志向」と言われて、どんな

ん保身に向かっている時代のようには思えません。そんな若者の傾向をどう思いますか？」

もったいないな、と思いますよ。もって一人一人可能性があると思うんですけど、その可能性を自ら潰している、という。やっぱり「大企業に入りた」だけじゃどこに入りた、何をしたい、とかないわけ、それってオフイスワークしたい、って言うてるのと変わらぬと思うわけですよ。「何をやって大企業なの？ 中・小企業ってじゃあどこから？」って聞いた時に大企業志望者の学生が答えられるのか、って事ですよ。それって結局安定志向なんですよ。

でも今の世の中って、この先安定なんて存在しないじゃないですか。日本だって確実に生き延びられない保証があるわけじゃない、いつギリシヤやイタリアのようになってもおかしくない。こういう時に自分がいつ何時でも変化できる、変わるし、適応できる、チャレンジできる、っていう自分ではいられない以外に安定はないんだらうな。このように思うと安定志向で大企業に入りた、っていうのをみるともったいないと思うし、自分の可能性をそこで止めちゃうだろ、そのままだまもちゃレンジしないのはまずいんだらうな、と思います。

「では、若者がやる気を持つために、どんな世の中になればいいと

思いますか？」

そうですね、まず色んな人が自分の楽しみ方で楽しんでるのが良いと思います。成功も、幸せも定義がなくて、その人一人一人にあるものから。自分の成功や幸せは結局自分が一番よく分かっているし、それを皆が素直に出せて生きられる社会、幸せだと感じられる社会が、本当に一番だと思います。

偉そうな事はあまり言えないですけど、やってやれない事はないし、可能性は無限大だと言いたいです。何だってできるの、と。でも皆、何かと条件付けて出来ない理由ばかり探しちゃうじゃないですか。もったいないし、何だってできるんだからやってみよう、と思ってるんですよ。

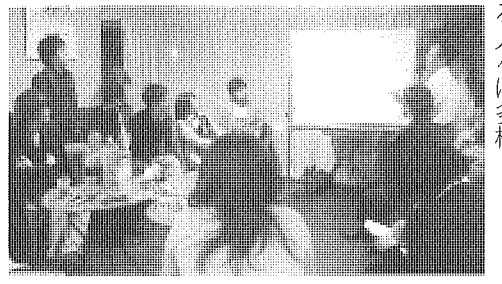
きっと、今の若者って昔の若者より世の中の空気を感知取りすぎてるんですよ。どうも明るい未来じゃないらしい、こ

のままいくとやばいらしい、みたいなのを色んなメディアとか情報から勝手にキャッチして。で、就職率、内定率に振り回されてる。昔は皆楽しんで好きな事やってたわけですよ。でも今はやっぱりちよっと考えすぎてて感じ取りすぎて。逆に言えば、今の若者の方が感受性が高いんだと思います。世の中の逆風に敏感なんですよ。けれど、強い風が吹いてそのままだま倒れちゃう、折れちゃうのは前へ進めない。どんな風が吹いても竹のようにしなやかに起き上がってくる人になってもらいたいですね。

### 世の中の空気を 感じ取りすぎる 若者たち

「では最後に、現代の若者に向けてアドバースをお願いします」

プラストビートは毎週木曜二十時頃、定期的に集まれる場を池袋に設けています。一般的に集会といえば、話す内容を決め集まる人を把握するものですが、ここへはいつでも良いし帰っても良い、突然知人を連れてくるなんてことも歓迎。話す内容も必ず決められるわけでなく、ただ「ここは開いているからいつでもおいで」という場になっていきます。(詳細はHPにて)



取材を行った学生より

松浦さんの行動力、そして明確な目標を持っていくところに強い感銘を受けました。二コースでも学校でも、不況の中大学生の就職活動は氷河期とあられ、不安ばかりが増してきます。また周囲でも大企業志向が多く「安定のために……」と流されそうになります。が、そこでやりたいことがしつかりと無ければ、どんなに安定している企業でもおそらく満足できないし、続かないのだと気づかれました。大してやりたくないことを無理に続けるのは、短い人生の無駄遣いとなってしまう。「自分の人生をフルに使ってでも成し遂げたい」と思えるものに自分の時間を捧げたい。難しいかもしれませんが、そんな風に思えるものに出会いたければ、出会う努力をしなければなりません。もちろん、出会ったら全力で行動したいです。

取材・川端、西村、前田  
文章・中西

**プロフィール**  
松浦貴昌 まつうら たかまさ  
1978年、新潟生まれ。  
16歳からバンド活動を行い30以上の職種を経験する。26歳にバンドを脱退、ビジネスの世界へ足を踏み入れる。大前研一のアタッカーズビジネススクール第19期生。バンド脱退から14ヶ月後にWebマーケティングを行う株式会社フィールビートを設立、代表取締役就任。複数の社会貢献プロジェクトに参加し2009年にプラストビートと出会う。



「前職の働就職課にいて学んだ事、役に立っている事はありますか？」

一言で言うならば「気配り」ですね。働就職課で内田社長にお世話になっていた時、すぐに「この人はスゴイ！」と衝撃を受けたんです。というのも、誰かと食事をした時は味を覚えていないそうです。じゃあ何を意識していたかという、相手がどれだけ自分といるこの時間を楽しんでくれているか。全神経を使っているか。全神経を使っているか。全神経を使っているか。

例えば力フェに行った時も、コースターが出てこない時には必ずナプキンを持ってきてコップを乗せます。水滴で濡れるとノートや携帯とかも滴っているだけで不快な

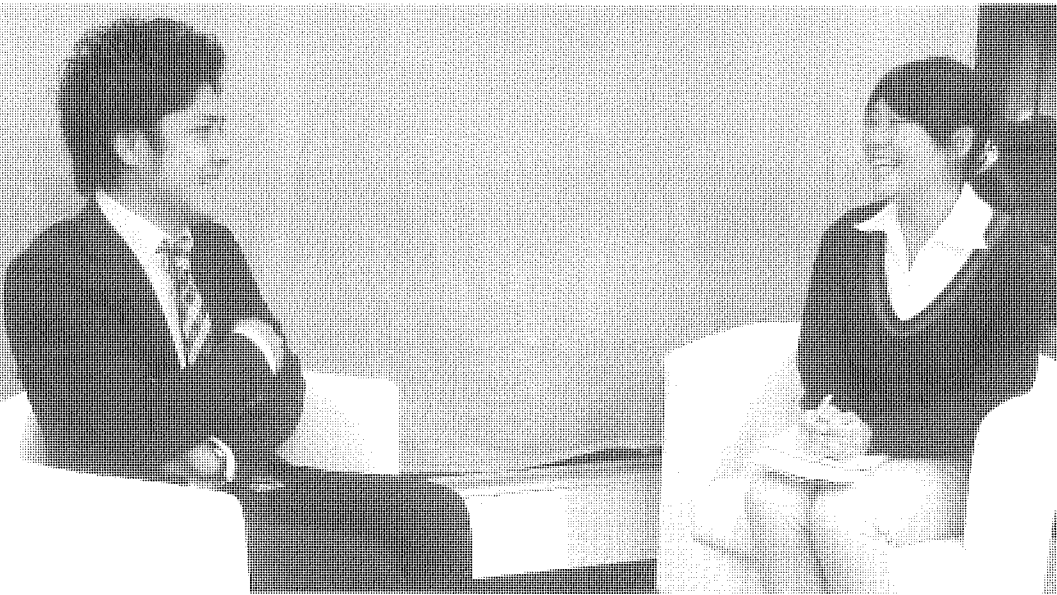
「前職の働就職課にいて学んだ事、役に立っている事はありますか？」

一言で言うならば「気配り」ですね。働就職課で内田社長にお世話になっていた時、すぐに「この人はスゴイ！」と衝撃を受けたんです。というのも、誰かと食事をした時は味を覚えていないそうです。じゃあ何を意識していたかという、相手がどれだけ自分といるこの時間を楽しんでくれているか。全神経を使っているか。全神経を使っているか。全神経を使っているか。

### 日頃から徹底した気遣いを

「前職の働就職課にいて学んだ事、役に立っている事はありますか？」

一言で言うならば「気配り」ですね。働就職課で内田社長にお世話になっていた時、すぐに「この人はスゴイ！」と衝撃を受けたんです。というのも、誰かと食事をした時は味を覚えていないそうです。じゃあ何を意識していたかという、相手がどれだけ自分といるこの時間を楽しんでくれているか。全神経を使っているか。全神経を使っているか。全神経を使っているか。



前島代表（左）にスタッフの西村（右）からインタビューを行った

「では働就職課さんの将来のビジョンを教えてください」

将来的には営業の大学を創ります。大学生問わず若い子たち、高校生とか、高校卒業したての子が入学して、営業の大学で営業を学んでもらいたいです。

そこで学び、卒業して社会に出ていく。もちろんそこからは起業するものも、自分で何か起こすものも、どこかの会社に所属して、そこでパフォーマンスを発揮してもらいたいとも思いますし、とにかく学生が営業について、仕事について知ってから社会に出てもらいたいです。

「では働就職課さんの将来のビジョンを教えてください」

将来的には営業の大学を創ります。大学生問わず若い子たち、高校生とか、高校卒業したての子が入学して、営業の大学で営業を学んでもらいたいです。

### プロフィール

**前島剛** まえしま 剛

1985年、東京生まれ。職人・美容師・フリーター・プログラマー・営業マンという異色の経歴を持つ。

様々な職種を経験する中で出会った営業職の魅力を感じ、学生・若者に営業を学ぶ場を提供し、営業を通じて夢や目標を実現する為に必要な能力開発を行う事を目的として、株式会社営業課を設立、代表取締役就任。

現在3社のセールスソーシングを請負い、トップセールスを記録しリーダーを輩出している。

「では働就職課さんの将来のビジョンを教えてください」

将来的には営業の大学を創ります。大学生問わず若い子たち、高校生とか、高校卒業したての子が入学して、営業の大学で営業を学んでもらいたいです。

「では働就職課さんの将来のビジョンを教えてください」

将来的には営業の大学を創ります。大学生問わず若い子たち、高校生とか、高校卒業したての子が入学して、営業の大学で営業を学んでもらいたいです。

### 取材を行った学生より

自分の進む道を自分で作り、自分の足で着実に歩いて来た人。インタビューを終えた後そんな印象を抱きました。

人生の分岐点では自分で道を選んで来たと思っていて、その後は周りの環境に同化し流れに身を任せて日々を過ごしている人は沢山いる。そのことに気付いている人もいない人もいます。気付けたとしても、危機感を持ち行動する人もいれば、何も感じず何も変わらない人もいます。前島社長は自分の人生を曖昧にしない。その眼差しには、自分や世間と真っ直ぐに向

「では働就職課さんの将来のビジョンを教えてください」

将来的には営業の大学を創ります。大学生問わず若い子たち、高校生とか、高校卒業したての子が入学して、営業の大学で営業を学んでもらいたいです。

アット ステップ 第2号

編集者  
中西美咲 (学習院大学)  
西村理沙 (立教大学)  
古塩龍治  
前田裕子 (学習院大学)

@STEPは若くして企業・NPO・NGO等の組織のリーダーとなった方を特集します。